3
サムエル
聖徒伝 81

「主権は常に神にある」

Ⅰサムエル記5～7章　奪われた契約の箱の足取り

Shikaoichurch.com

アウトライン

0.　イントロダクション

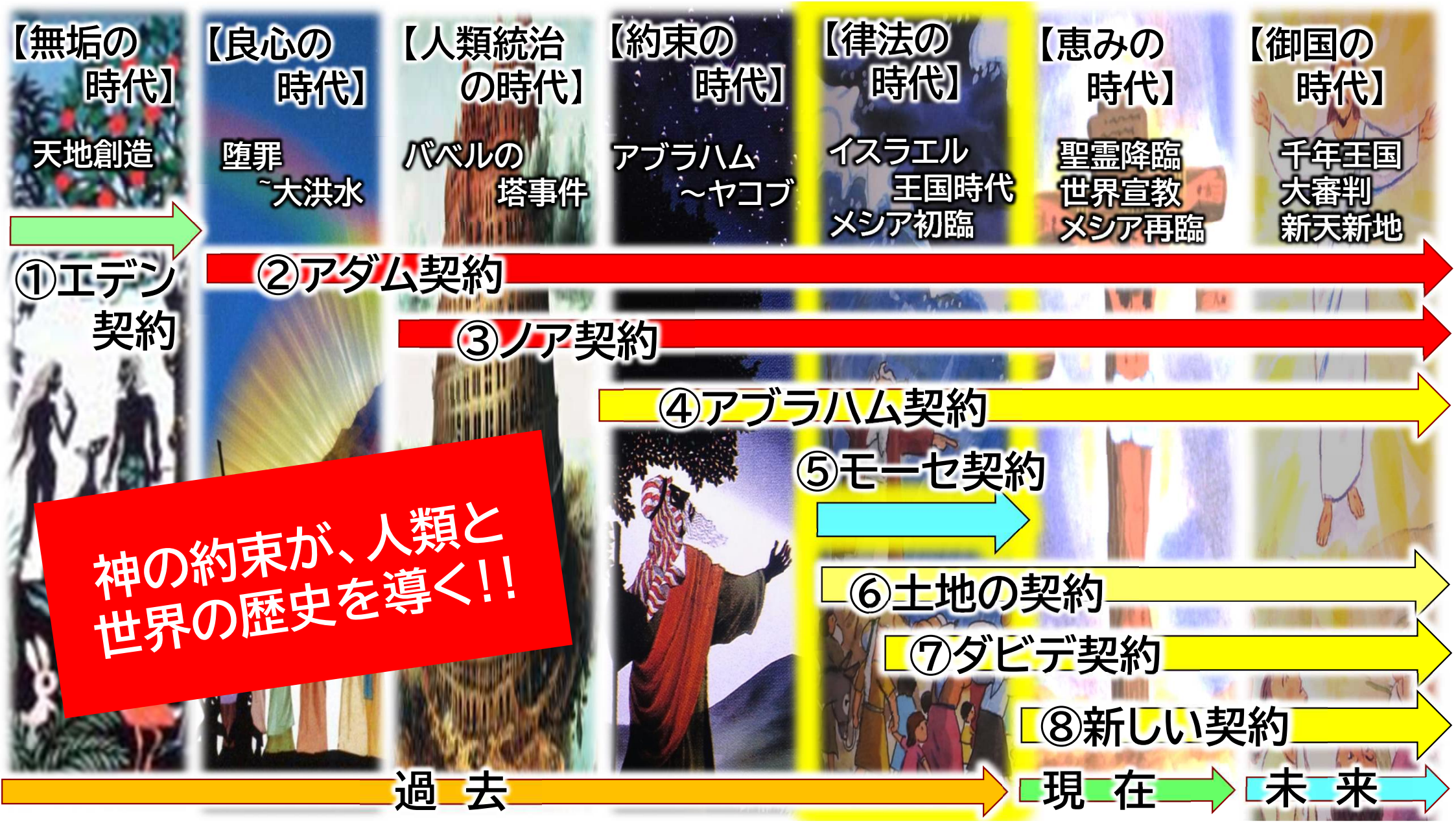
Ⅰ.　打たれた偶像神　5章

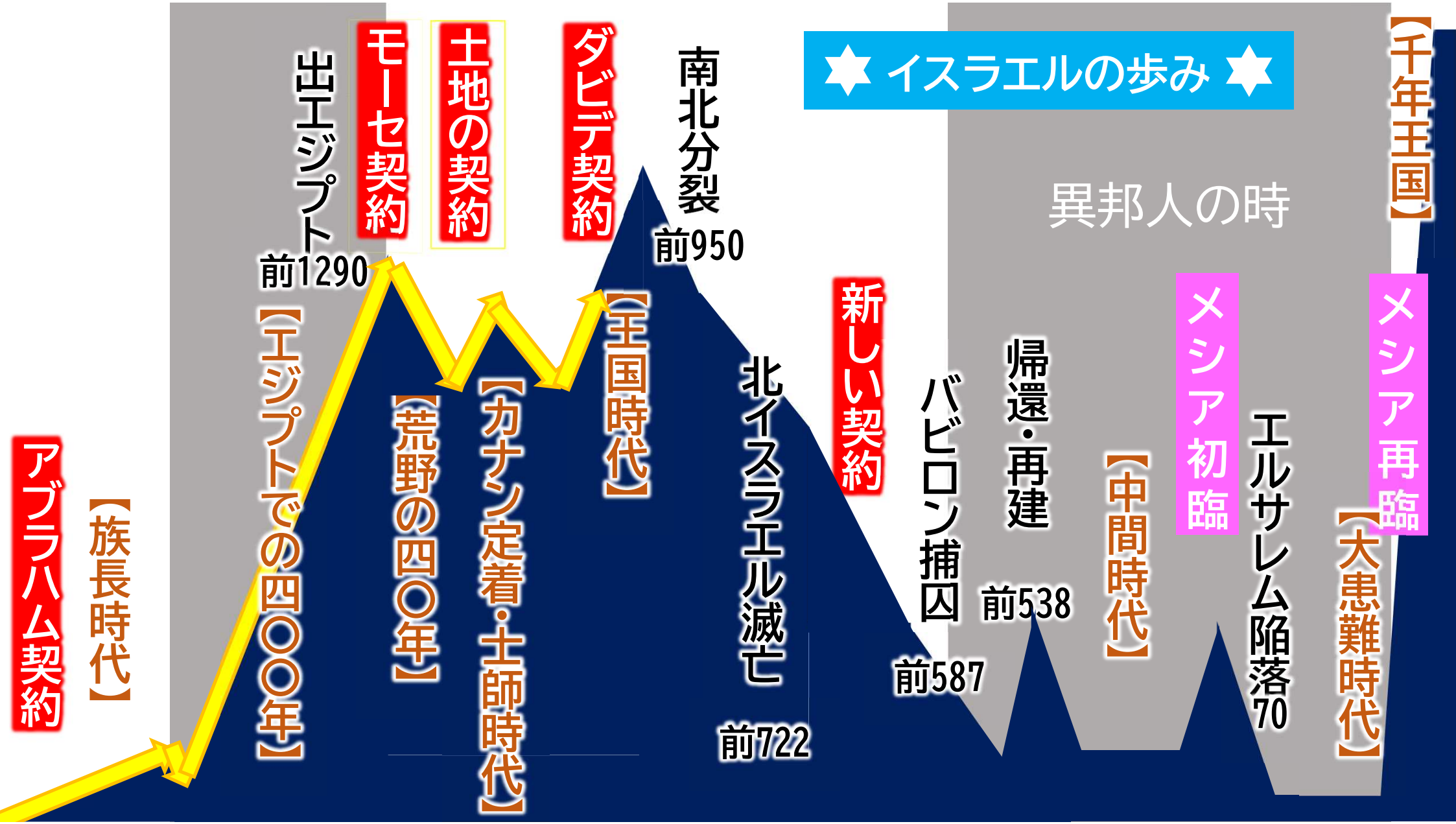
Ⅱ.　送り返された契約の箱　6章

Ⅲ.　サムエルの裁き　7章

Ⅳ.　まとめと適用

全知全能の主に信頼しよう


【無垢の時代】
天地創造
【良心の時代】
堕罪
~大洪水
【人類統治の時代】
バベルの塔事件
【約束の時代】
アブラハム
～ヤコブ
【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨
【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨
【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地
①エデン契約
②アダム契約
③ノア契約
④アブラハム契約
⑤モーセ契約
⑥土地の契約
⑦ダビデ契約
⑧新しい契約
神の約束が、人類と
世界の歴史を導く!!
過　去
現　在
未　来

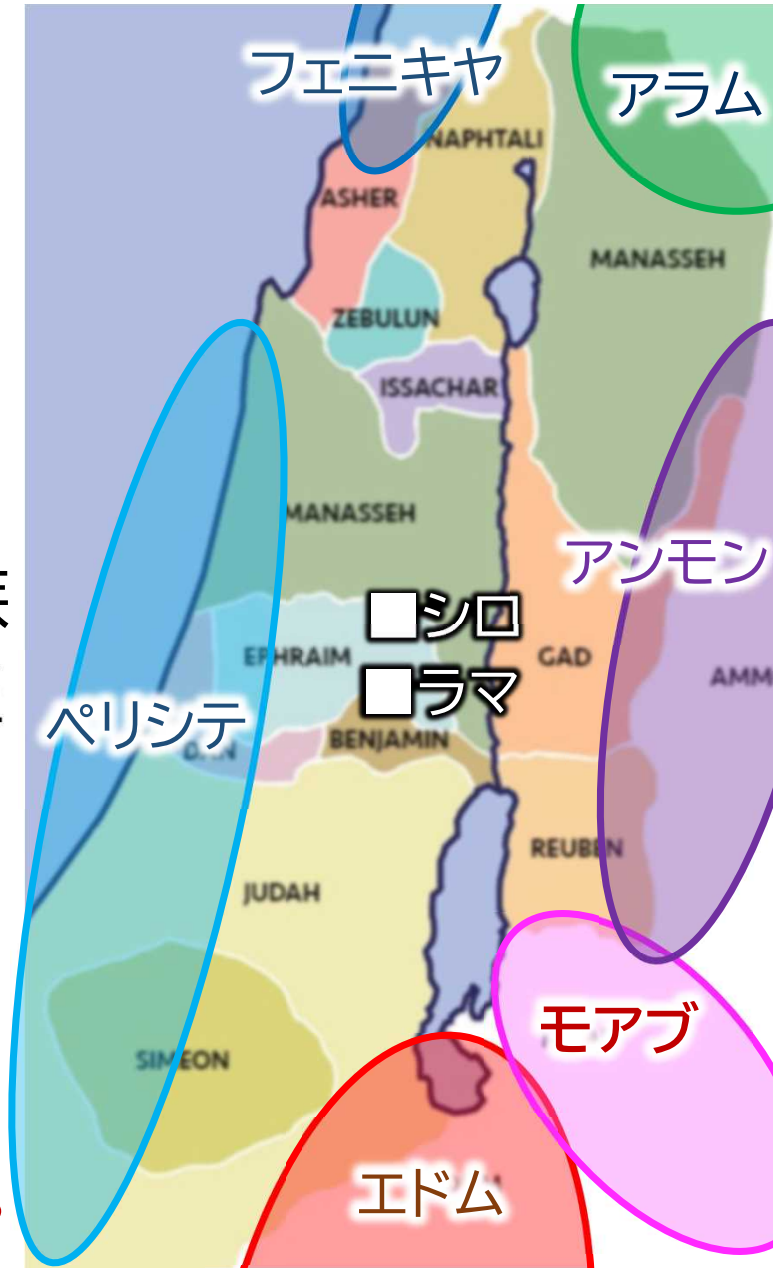

イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
出エジプト
前1290
モーセ契約
【荒野の四〇年】
土地の契約
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
メシア再臨
【大患難時代】
【千年王国】

【最後の士師サムエル】

■約束の地で相続地を手に入れたイスラエル。しかし、未征服の地も多く残り、カナン人の偶像礼拝が、たびたび悪影響をもたらした。

■混沌の時代に主が立てた士師たちは、一部族のリーダーに過ぎず、全イスラエルを治める王は、まだいなかった。

■ついに誕生するイスラエルの王。その準備をしたのが、最後の士師とも言われる**サムエル**。
➡サムエルが治めたのは**イスラエルの核心部**。



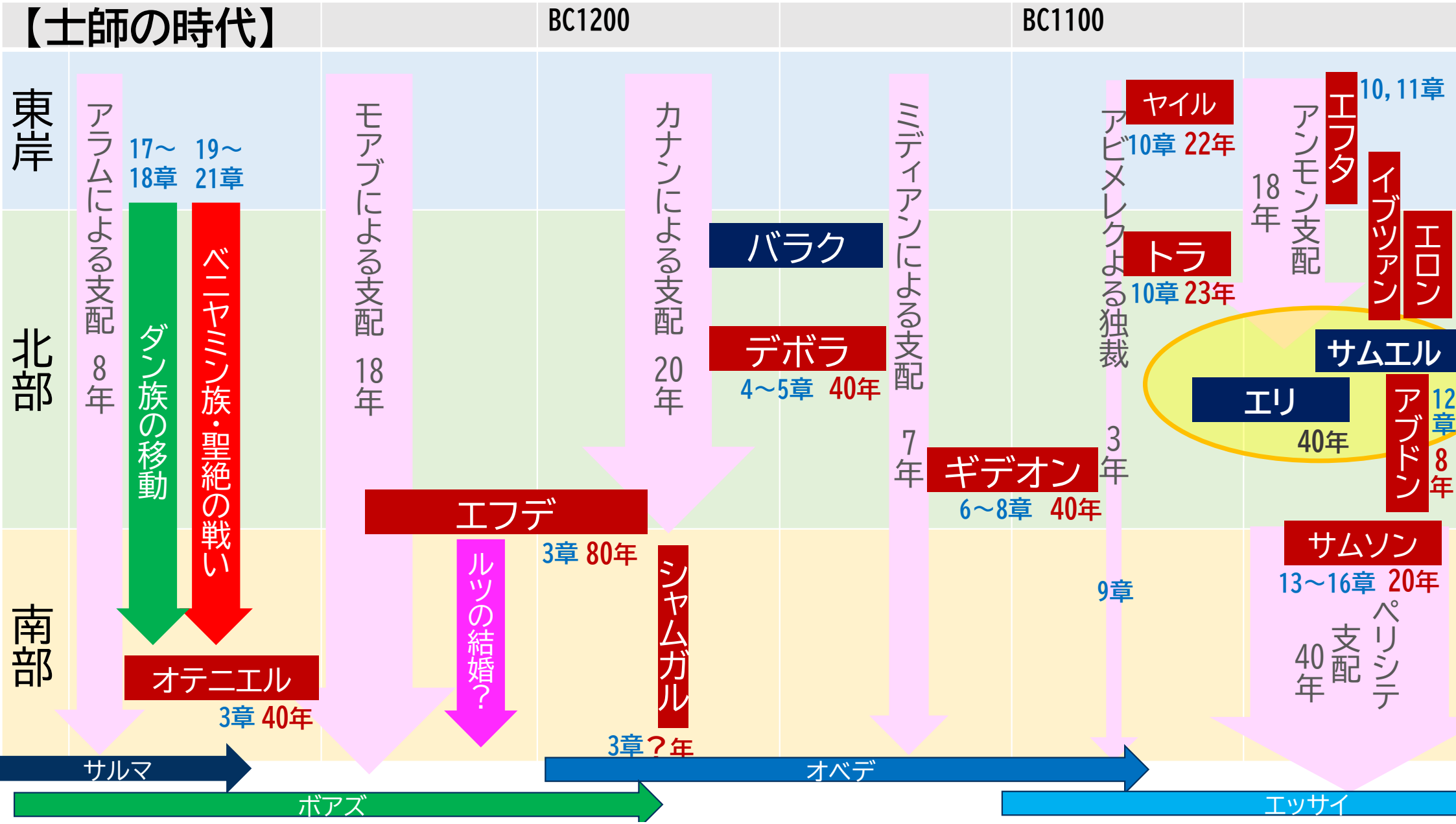
【サムエルのプロフィール】

■レビ人ケハテ族　…幕屋の祭具（契約の箱）を運搬。
　➡幕屋の**奉仕者**であって、祭司の一族ではない。

■この時代には**予見者**と呼ばれた。
　最後の**士師**。**預言者**。

■士師時代と王国時代をつなぎ、
　イスラエルに王が誕生する前の**道ぞなえ**をした。

■最初の王サウル。真の王**ダビデ**に油を注いだ。


【士師の時代】
BC1200
BC1100
東岸
北部
南部
アラムによる支配 8年
17～18章
19～21章
ダン族の移動
ベニヤミン族・聖絶の戦い
オテニエル
3章 40年
モアブによる支配 18年
エフデ
3章 80年
ルツの結婚？
カナンによる支配 20年
シャムガル
3章？年
バラク
デボラ
4～5章 40年
ミディアンによる支配 7年
ギデオン
6～8章 40年
アビメレクによる独裁 3年
9章
ヤイル
10章 22年
トラ
10章 23年
アンモン支配 18年
エフタ
10, 11章
イブツアン
エロン
サムエル
エリ
40年
アブドン
12章
8年
サムソン
13～16章 20年
ペリシテ支配 40年
サルマ
ボアズ
オベデ
エッサイ

サムエル記 第一

士師時代	サムエル	1:1～2:11	サムエルの誕生
		2:12～3:21	サムエルの召命
		4:1～7:17	奪われた契約の箱
		8:1～9:27	後継者不在　王を求める民
王政時代	サウル	10:11～11:15	油注ぎ
		12:1～25	士師サムエルの民への告別
		13:1～15:35	王が重ねた神への背き
	ダビデ	16:1～13	油注ぎ
		16:14～23	王宮での奉仕
		17:1～58	ゴリヤテとの戦い
		18:1～30	サウルの娘ミカルとの結婚
		19:1～26:25	荒野の逃亡の日々
		27:1～30:31	ペリシテ人の地で
		31:1～13	サウルの死

サムエル

サウル

ダビデ

■シロ
■ラマ
■エルサレム
ペリシテ
士師サムエルの活動範囲

【ペリシテ人とは？】

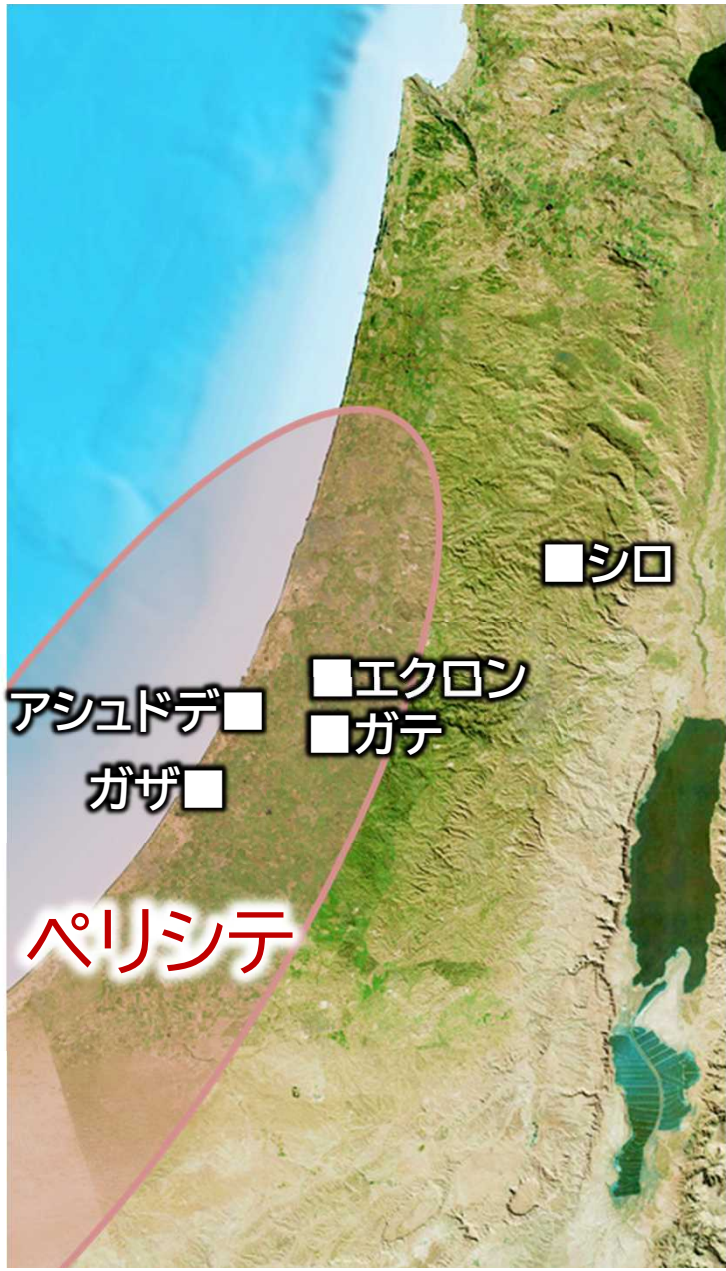
■ノア➡ハム➡ミツライムの子孫（創10:14）

■イスラエル南西の海沿いに勢力を持つ。
　アブラハム、イサクとのトラブルも。

■出エジプト後、イスラエルが恐れて引き返さ
　ないよう、神は、ペリシテの地を迂回させた。

■士師の時代にも強敵。サムソンが対決。

■鉄器の扱いに優れ、優れた文明を誇った。



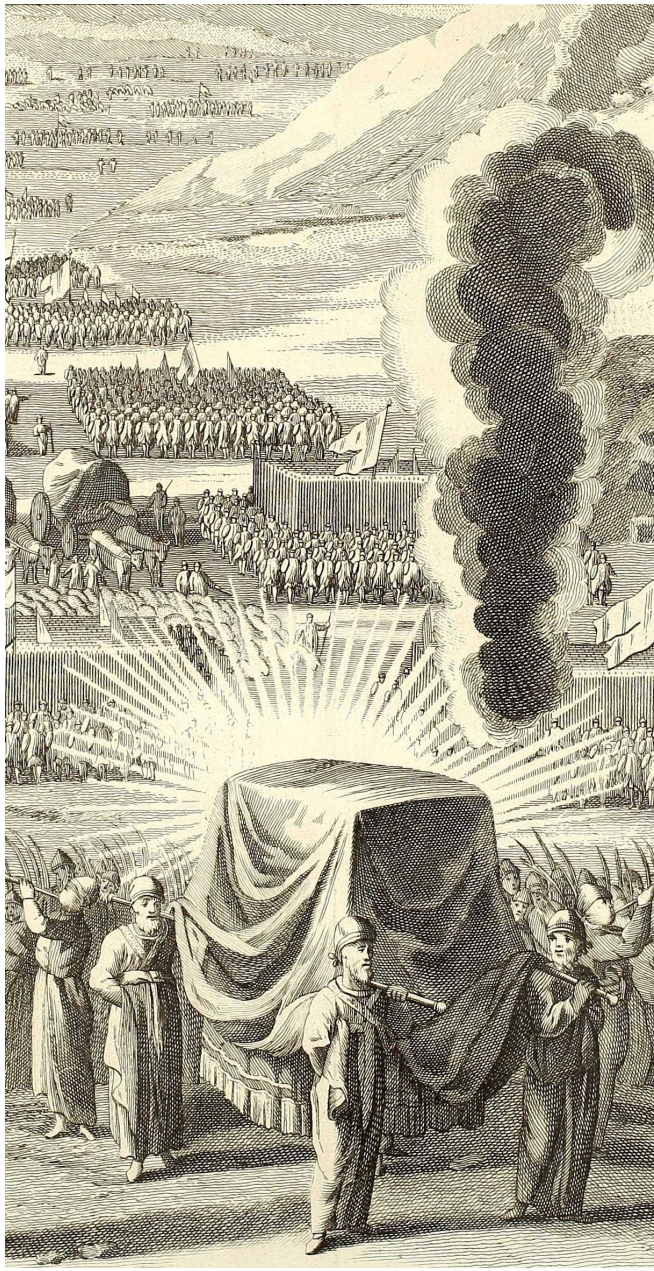
【奪われた契約の箱】　Ⅰサムエル4章

■ペリシテ軍に手痛い敗北を喫したイスラエルは、神頼みで戦場に**契約の箱**を運び込んだ。

■奮起したペリシテ軍により、イスラエルは大敗。不信仰な祭司ホフニとピネハスも死んだ。

■イスラエルの敗北と二人の息子の死が、エリに告げられた。**神の箱が奪われた**という最悪の知らせを聞いて、エリは倒れて死んだ。

■神の箱と共に、**神の栄光**がイスラエルを去った。



Ⅰ．　打たれた偶像神　　Ⅰサムエル記5章

【アシュドデの町で】　Ⅰサムエル5:1～3

ペリシテ人は神の箱を奪って、エベン・エゼルからアシュドデまで運んで来た。

それからペリシテ人は神の箱を取り、ダゴン*の神殿に運んで来て、ダゴンの傍らに置いた。

アシュドデの人たちが、翌日、朝早く起きて見ると、なんと、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。そこで彼らはダゴンを取り、元の場所に戻した。

＊バアル神の父、半人半獣の海洋神とも言われる。
バアル礼拝以前にカナンで盛んだった偶像。

【打たれた偶像】　Ⅰサムエル5:4～5

　次の日、朝早く彼らが起きて見ると、やはり、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。ダゴンの頭と両手は切り離されて敷居のところにあり、胴体だけがそこに残っていた。 それで今日に至るまで、ダゴンの祭司たちやダゴンの神殿に入る者はみな、アシュドデにある**ダゴンの敷居を踏まない*。**

＊新たな迷信が生まれた？　人々の衝撃。

【移された神の箱】　Ⅰサムエル5:6～8

【主】の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、アシュドデとその地域の人たちを腫物で打って脅かした。

アシュドデの人たちは、この有様を見て言った。「イスラエルの神の箱は、われわれのもとにとどまってはならない。その手は、われわれとわれわれの神ダゴンの上に厳しいも*のであるから。」それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員そこに集め、「イスラエルの神の箱をどうしたらよいでしょうか」と言った。領主たちは「イスラエルの神の箱は、ガテに移るようにせよ」と言った。そこで彼らはイスラエルの神の箱を移した。

＊個々の町に偶像が。どの町の神なら対応可能か？

【誰も逃れられない神の御手】　Ⅰサムエル5:9～12

それがガテに移された後、【主】の手はこの町に下り、非常に大きな恐慌を引き起こし、この町の人々を上の者も下の者もみな打ったので、彼らに腫物ができた。

ガテの人たちは神の箱をエクロンに送った。神の箱がエクロンにやって来たとき、エクロンの人たちは大声で叫んで言った。「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ。」

それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員集め、「イスラエルの神の箱を送って、元の場所に戻っていただきましょう。私と私の民を殺すことがないように」と言った。町中に死の恐慌があったのである。神の手は、そこに非常に重くのしかかっていた。死ななかった者は腫物で打たれ、助けを求める町の叫び声は天にまで上った。

Ⅱ．　送り返された契約の箱　　Ⅰサムエル記6章

【ペリシテ人たちの協議】　Ⅰサムエル6:1～3

【主】の箱は七か月間ペリシテ人の地にあった。

ペリシテ人は祭司たちと占い師たちを呼び寄せて言った。「【主】の箱をどうしたらよいでしょうか。どのようにして、それを元の場所に送り返せるか、教えてください。」

彼らは答えた。「イスラエルの神の箱を送り返すのなら、何もつけないで送り返してはなりません。神に対して償いをしなければなりません。そうすれば、あなたがたは癒やされるでしょう。また、なぜ、神の手があなたがたから去らないかが分かるでしょう。」

【頭を絞る偶像礼拝者たち】　Ⅰサムエル6:4～5

人々は言った。「私たちが送るべき償いのものは何ですか。」彼らは言った。「ペリシテ人の領主の数に合わせて、五つの金の腫物、つまり五つの金のねずみ*です。彼ら全員、つまりあなたがたの領主たちに、同じわざわいが下ったのですから。

あなたがたの腫物の像、つまり、この地を破滅させようとしているねずみの像を造り、それらをイスラエルの神に貢ぎとして献げなさい。**もしかしたら***神は、あなたがたと、あなたがたの神々、そしてあなたがたの地の上にのしかかっている、その手を軽くされるかもしれません。

＊ねずみを媒介とする感染症？　＊確信はない!!

【ペリシテ人の主への恐れ】　Ⅰサムエル6:6～7

なぜ、あなたがたは、エジプト人とファラオが心を硬くしたように、心を硬くするのですか。* 神が彼らに対して力を働かせたときに、彼らはイスラエルを去らせ、イスラエルは出て行ったではありませんか。

今、一台の新しい車を用意し、くびきを付けたことのない、乳を飲ませている雌牛を二頭取り*、雌牛を車につなぎ、その子牛は引き離して小屋に戻しなさい。

＊少なくともペリシテ人は主を恐れ、自分たちの神々の敗北を認めた。

＊この捧げものは、主のみ心にかなっただろう。

【ペリシテの呪術師の提案】　Ⅰサムエル6:8～9

　また、【主】の箱を取って車に載せなさい。償いとして返す金の品物を鞍袋に入れて、そのそばに置きなさい。そして、それが行くがままに、去らせなければなりません。
注意して見ていなさい。その箱がその国境への道をベテ・シェメシュ*に上って行くなら、私たちにこの大きなわざわいを起こしたのはあの神です。もし行かないなら、神の手が私たちを打ったのではなく、私たちに偶然起こったことだと分かります。」

＊ユダの相続地内にある**祭司の町**（ヨシュア21:16）。

【立ち去る神の箱】　Ⅰサムエル6:10～12

人々はそのようにした。彼らは乳を飲ませている雌牛を二頭取り、それを車につないだ。子牛は小屋に閉じ込めた。そして【主】の箱を車に載せ、また金のねずみ、すなわち腫物の像を入れた鞍袋を載せた。

雌牛は、ベテ・シェメシュへの道、一本の大路をまっすぐに進んだ。鳴きながら進み続け、右にも左にもそれなかった。ペリシテ人の領主たちは、ベテ・シェメシュの国境まで、その後について行った。

【神の箱の帰還】　Ⅰサムエル6:13～16

ベテ・シェメシュの人たちは、谷間で小麦の刈り入れをしていたが、目を上げると、神の箱が見えた。彼らはそれを見て喜んだ。

車はベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑に来て、そこにとどまった。そこには大きな石があった。人々は、車の木を割り、雌牛を全焼のささげ物として【主】に献げた。

レビ人たちは、【主】の箱と、そばにあった金の品物の入っている鞍袋を降ろし、その大きな石の上に置いた。その日、ベテ・シェメシュの人たちは全焼のささげ物を献げ、いけにえを【主】に献げた。

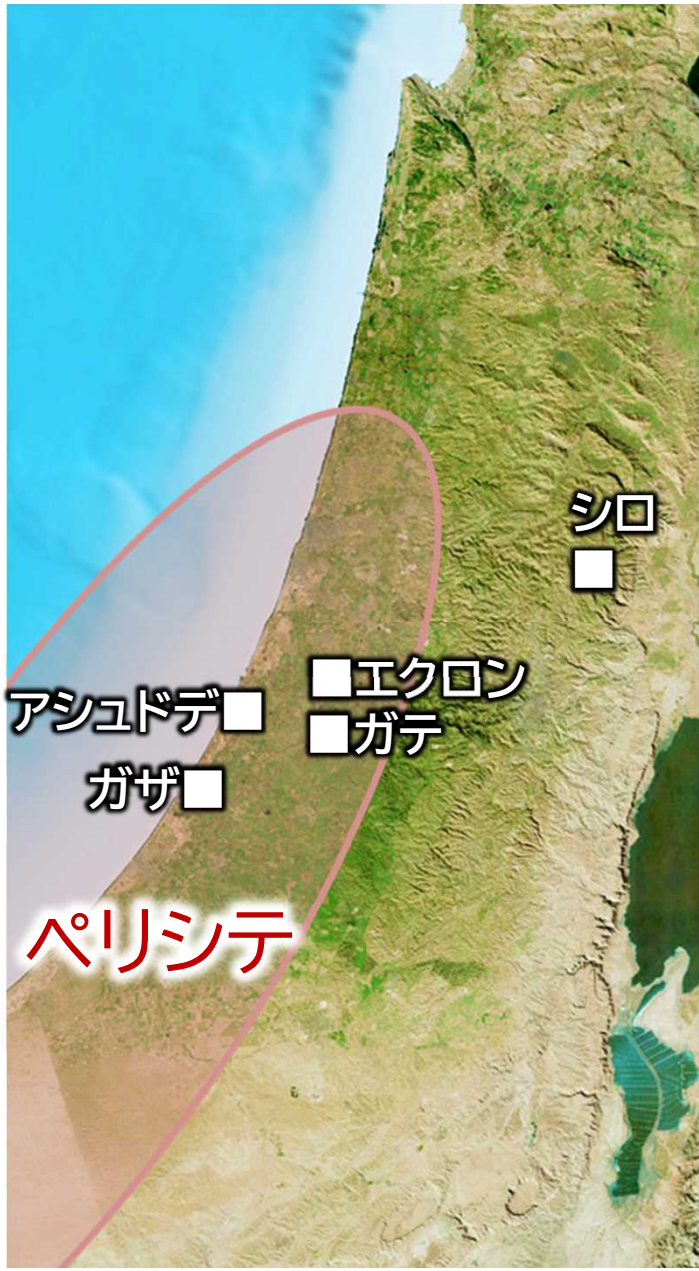
ペリシテ人の五人の領主は、これを見て、その日エクロンに帰った。

【人々に記憶されて】 Ⅰサムエル6:17～18

ペリシテ人が償いとして【主】に返した金の腫物は、アシュドデのために一つ、ガザのために一つ、アシュケロンのために一つ、ガテのために一つ、エクロンのために一つであった。

すなわち、金のねずみは、五人の領主に属するペリシテ人の町の総数によっていた。それは、砦の町と城壁のない村の両方を含んでいる。彼らが【主】の箱を置いたアベルの大きな台は、今日までベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑にある。

■神の箱を巡る出来事は、ペリシテとイスラエル双方に、主への恐れを抱かせた。



【おろかな祭司たち】 Ⅰサムエル6:19～21

主はベテ・シェメシュの人たちを打たれた。【主】の箱の中を見たからである。主は、民のうち七十人を、すなわち、千人に五人を打たれた。【主】が民を激しく打たれたので、民は喪に服した。

ベテ・シェメシュの人たちは言った。「だれが、この聖なる神、【主】の前に立つことができるだろう。私たちのところから、だれのところに上って行くのだろうか。」

彼らはキルヤテ・エアリムの住民に使者を遣わして言った。「ペリシテ人が【主】の箱を返してよこしました。下って来て、あなたがたのところに運び上げてください。」

■祭司なのに、契約の箱の取り扱いを知らない!?

問われる民の不信仰

Ⅲ.　サムエルの裁き　　Ⅰサムエル記7章

【とどまった神の箱】　Ⅰサムエル7:1～2

キルヤテ・エアリム*の人々は来て、【主】の箱を運び上げ、丘の上のアビナダブの家に運んだ。そして、【主】の箱を守るために彼の息子エルアザルを聖別した。

箱がキルヤテ・エアリムにとどまった日から長い年月がたって、二十年になった*。イスラエルの全家は【主】を慕い求めていた。

＊ユダの相続地にある要衝の町。

➡ダビデの時まで神の箱が置かれた（Ⅰ歴13:5）

＊神の箱強奪以来のイスラエルの長い停滞。

➡イスラエルの民の**悔い改め**を促す神の沈黙の期間。

【悔い改めと信仰の回復】　Ⅰサムエル7:3～4

サムエルはイスラエルの全家に言った。

「もしあなたがたが、心のすべてをもって【主】に立ち返るなら、あなたがたの間から異国の神々やアシュタロテを取り除きなさい。そして心を【主】に向け、主にのみ仕えなさい。そうすれば、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出してくださいます。」

イスラエル人は、バアルやアシュタロテの神々を取り除き、【主】にのみ仕えた。

■二つの促し　…❶主に立ち返り、偶像を取り除く。
❷心を主に向け、主にのみ仕える。

【民の悔い改め・士師の裁き】　Ⅰサムエル7:5～6

サムエルは言った。「全イスラエルを、ミツパ*に集めなさい。私はあなたがたのために【主】に祈ります。」

彼らはミツパに集まり、水を汲んで【主】の前に注ぎ、その日は断食した。彼らはそこで、「私たちは【主】の前に罪ある者です」*と言った。こうしてサムエルはミツパでイスラエル人をさばいた。

＊ミツパ　…ベニヤミンの相続地の北部の町。

＊主の前に、罪の告白がなされた。民族的回心。

■イスラエルの民の悔い改めを経て、
　サムエルが士師に立てられた。

【サムエルの指示】　Ⅰサムエル7:7～8

イスラエル人がミツパに集まったことをペリシテ人が聞いたとき、ペリシテ人の領主たちはイスラエルに向かって上って来た。イスラエル人はこれを聞いて、ペリシテ人を恐れた。

イスラエル人はサムエルに言った。「私たちから離れて黙っていないでください。私たちの神、【主】に叫ぶのをやめないでください。主が私たちをペリシテ人の手から救ってくださるようにと。」

＊ペリシテを恐れ、押し黙ってしまったイスラエル。

■主に叫ぶのをやめるな、という支持の本質は、
　主に心を向け続けろということ。

【ペリシテとの戦い】　Ⅰサムエル7:9～11

サムエルは、乳離れしていない子羊一匹を取り、焼き尽くす全焼のささげ物として【主】に献げた。サムエルはイスラエルのために【主】に叫んだ。すると【主】は彼に答えられた。

サムエルが全焼のささげ物を献げていたとき、ペリシテ人がイスラエルと戦おうとして近づいて来た。しかし【主】は、その日ペリシテ人の上に大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱したので、彼らはイスラエルに打ち負かされた。

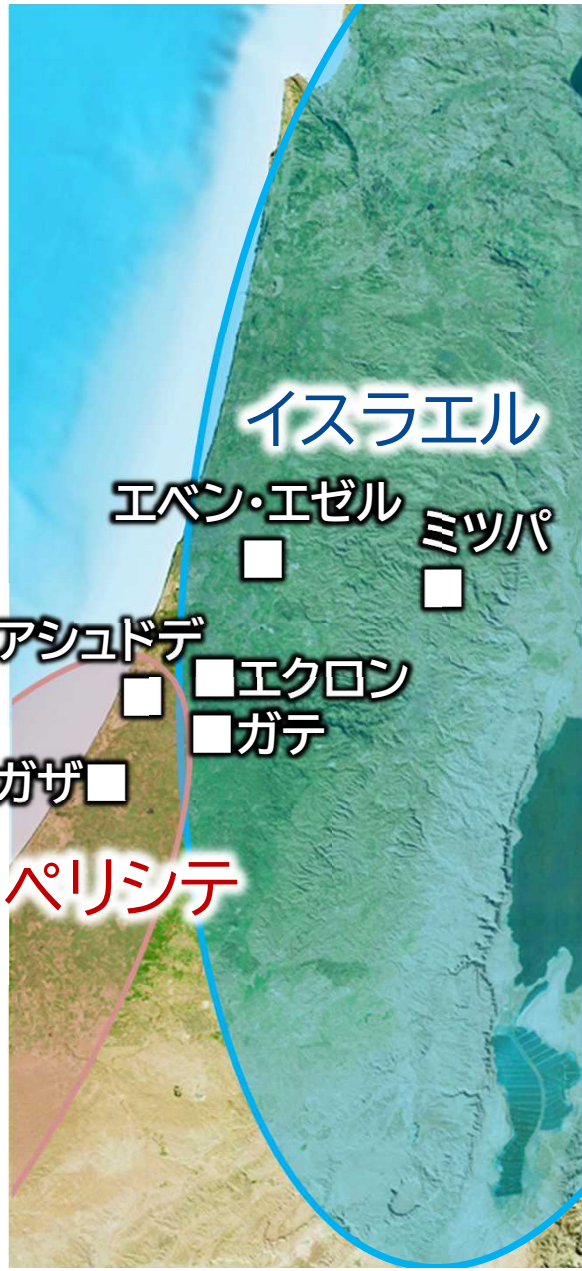
イスラエルの人々は、ミツパから出てペリシテ人を追い、彼らを討ってベテ・カルの下にまで行った。

【イスラエルの平和】　Ⅰサムエル7:12～14

サムエルは一つの石を取り、ミツパとエシェンの間に置き、それにエベン・エゼルという名をつけ、「ここまで【主】が私たちを助けてくださった」と言った。

ペリシテ人は征服され、二度とイスラエルの領土に入って来なかった。サムエルの時代を通して、【主】の手がペリシテ人の上にのしかかっていた。

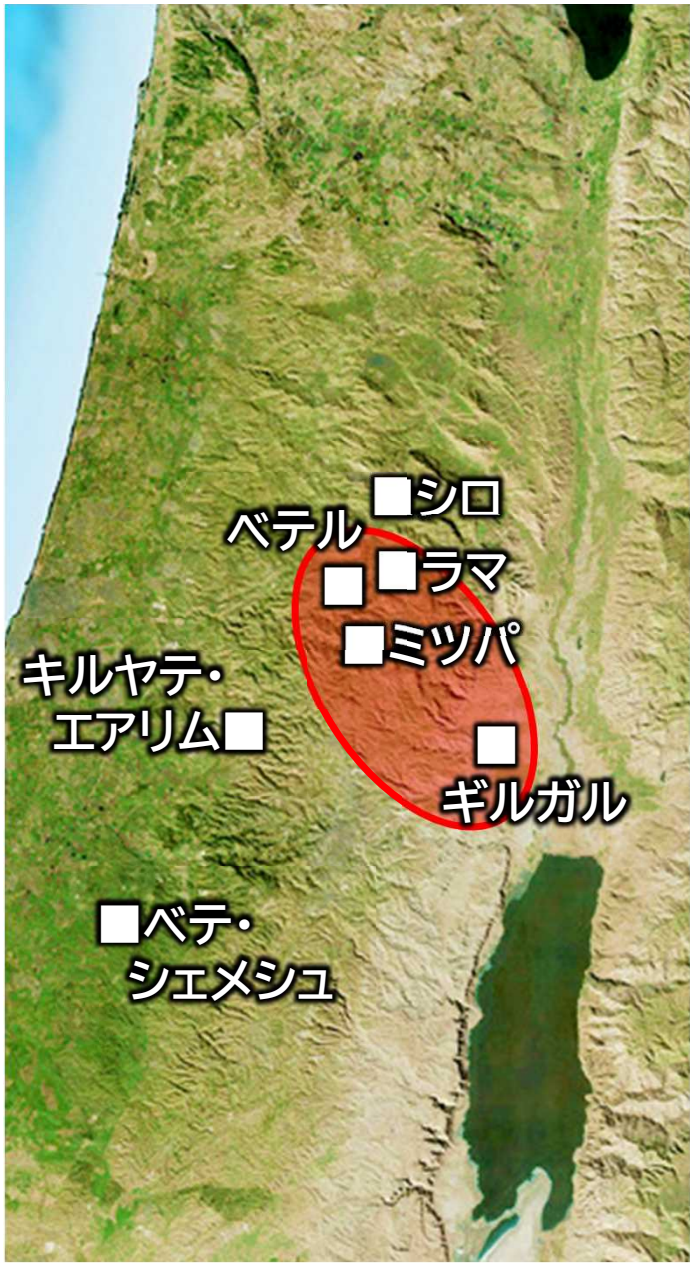
ペリシテ人がイスラエルから奪い取っていた町々は、エクロンからガテまでが、イスラエルに戻った。イスラエルはペリシテ人の手から、その領土を解放した。そのころ、イスラエルとアモリ人の間には平和があった。



【士師サムエルの統治】　Ⅰサムエル7:15～17

サムエルは、一生の間、イスラエルをさばいた。彼は年ごとに、ベテル、ギルガル、ミツパを巡回し、これらすべての聖所でイスラエルをさばき、ラマに帰った。そこに自分の家があり、そこでイスラエルをさばいていたからである。彼はそこに【主】のために祭壇を築いた。

■サムエルが士師として裁いた40年間。
　イスラエルは、主に仕え、平和を保たれた。



Ⅳ. まとめと適用　全知全能の主に信頼しよう

西部の平野

【サムエルがイスラエルに促し、行ったこと】

「Ⅰサムエル7:5　もしあなたがたが、心のすべてをもって【主】に立ち返るなら、あなたがたの間から異国の神々やアシュタロテを取り除きなさい。そして心を【主】に向け、主にのみ仕えなさい。」

■祭司が打たれ、神の箱が奪われ、主の栄光が去る。建国以来の衝撃。

■サムエルは、イスラエルに**悔い改め**を促し、偶像を取り去った。

■**民族的回心**を果たしたイスラエルが、**ただ主に心を向けた**結果、
サムエルの下、イスラエルは平和を味わうことができた。

■不信仰はどこまでも不信仰。悔い改めない限り何も変わらない。

【主権は常に主にある】

■神の箱を奪ったペリシテ人は、主に翻弄され、裁かれ、主を恐れた。
箱を引き渡したのも、帰還させたのも、**すべて主の御手の業**。

■主の栄光が去り絶望したイスラエルだが、主は見捨てていなかった。
主ご自身の力によって、主の栄光はイスラエルに戻られた。

■イスラエルを常に導くのは、常に、主の**一方的な恵みの約束**。

■神の栄光の喪失と回復の出来事は、**すべてが主の主権による**ことを
イスラエルに思い知らせたことだろう。

【どんな状況の中でも、覚えるべきは全知全能の主】

■災いさえも、**主が許された範囲の中**で起こっていること。
私たちが立ち返るべきは、常に、全知全能の主のみ。

■**すべては主による。**ただ主を見上げる時、今を生きる意味が分かる。

■人と人との関係性が崩されて残るのは、**わたしと主との関係のみ。**
神との個人的関係の深まりこそ、強く求められていると覚えよう。

■**ひたすら主に聴きつつ**、聖書を学び、主を知っていこう。

■変わらない教会時代の福音宣教の使命。果たす道も与えられている。
今できることに力を注げばいい。**危機が不信仰をそぎ落とす。**

【新約聖書にも記されたサムエルの働き】

■偉大な信仰者の一人と数えられる

ヘブル 11:32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、**サムエル**、預言者たちについても語れば、時間が足りないでしょう。

■主の救いと教会時代をも告げた預言者の一人。

使3:24 また、**サムエル**をはじめ、彼に続いて語った預言者たちもみな、今の時について告げ知らせました。

➡サムエルもまた、**女の子孫**、**モーセのような預言者**として来られ、全民族を祝福するイスラエルの**メシア**を待ち望んでいた。

【信仰者の使命を身に帯びよう】

■混迷を深めるリーダーを反面教師に教えられる。
➡はるかな先のビジョンを確かに持つ人ほど、
現実の中で、重大な決定をなすことができる。

■サムエルは、律法から主の計画を学び、主の救いを待望していた。
➡将来の確信こそが、厳しい現実の中で、士師サムエルを支えた。

■私の罪のために十字架にかけられ、復活された主イエスは、
王の王、裁き主として帰ってこられる。時代の最後の裁きの前に、
信じるものすべてを御許に上げてくださる。

■神のビジョンを胸に刻み、与えられた使命に今日も生きよう。
人々に福音を宣言しよう。神の計画を伝えよう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信じます。
混沌(こんとん)の中、人々の不安(ふあん)は増(ま)しています。
深(ふか)まる闇(やみ)の中、主の平安(へいあん)で
この身を満(み)たしてください。
将来(しょうらい)の約束(やくそく)を胸(むね)にきざみ、
確信(かくしん)をもって　福音(ふくいん)を告(つ)げる者として、
ここから遣(つか)わしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」